作成 2022.4.25

1970 年山口大学ワンダーフォーゲル部 3 年生夏合宿、飯豊連峰・朝日連峰縦走記

惠谷　浩

昭和 45 年（1970 年）、筆者が山口大学３年生のときに山口大学ワンダーフォーゲル部の夏合宿で飯豊連峰と朝日連峰を縦走した。

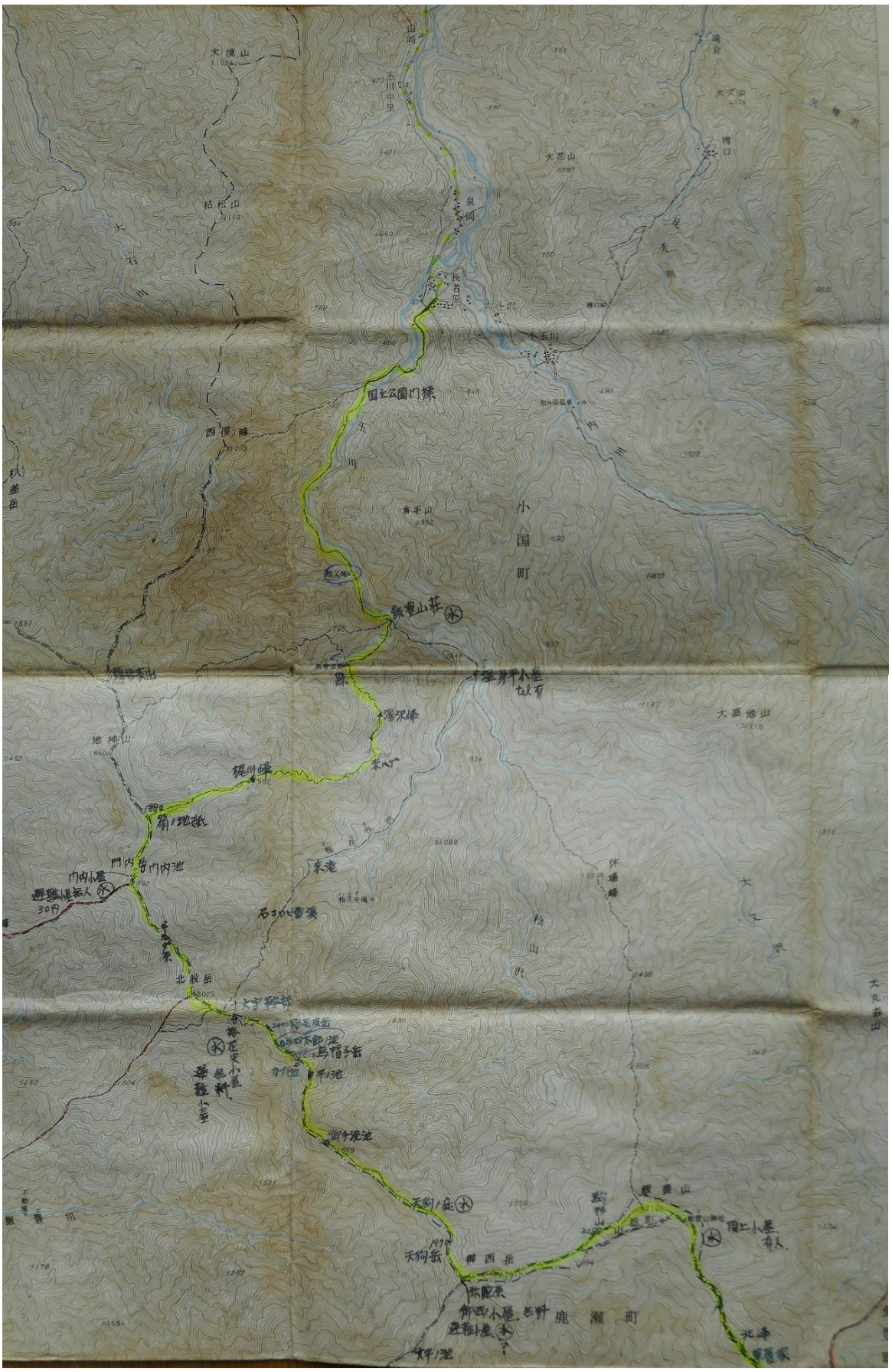
東京都や千葉県などに適用されていた新型コロナウイルスに対するまん延防止等重点措置が全て解除されたが、まだまだコロナウイルス禍にある現在、当時使用した国土地理院 5 万分の 1 地図の裏側に詳細な行程の実績を記録しており、当時の焼増し写真およびネガフィルムを保管している。山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会・鳳翩会のホームページの部誌に掲載されている「あるきの記」第７号や昭文社発行の山と高原地図・飯豊山 2022 年版および朝日連峰 2021 年版、ネットを参考として縦走記を編集することにした。写真は一部を焼増し保管していたが、この度ネガフィルムから焼きましたものはネガフィルムにカビが生えており、鮮明度が落ちカビが写ったりしている。また、同行者が撮影したモノクロ写真をもらって保管していた。この度、これらの写真をデジタルカメラで複写して編集に使用した。

パーティーメンバー（B パーティー）は PL（パーリー：パーティーリーダー）・筆者（惠谷）（文理学部 3 年生）、SL（サブリー：サブリーダー）・山本充二君（経済学部３年生）、小田二郎君（経済学部２年生）、波木建一君（工学部１年生）、山村基久君（工学部１年生）で５名である。なお、当初予定ではもう１名いたが、事情により参加していない。他には A（月山、朝日）、C（朝日、飯豊）、D（朝日、飯豊）、E（飯豊、磐梯山：女子）パーティーがあり、朝日、飯豊は各パーティで入山、下山コースが異なっている。昭和 45 年 7 月 25 日から全パーティーが瑠璃光寺の本堂に 1 泊しプレ合宿をした後、7 月 26 日 20:56 山口駅を出発。21:20 小郡駅着、22:35 小郡駅発。7 月 27 日 7:25 大阪駅着。22:14 大阪駅発、同方向に行く C パーティーと一緒に大阪駅で半日以上も待ったが、後日になって待たなくても良かったことを知った。

7 月 28 日晴：8:15 新津駅着、8:48 新津駅発。11:14 山都駅着。11:20 発のバスに乗り、12:05 一ノ木着。昼食。13:40 発のバスに乗り、14:05 川入・標高 480m に着、この間のバス代 100 円。乗り物での長い旅の後、14:20 いよいよ登山開始。筆者は夏合宿で初めての PL 経験で期待と不安が交雑。他のパーティーの PL 達も同様だったことだろう。ブナ林の沢沿いの平坦な道を歩き、14:55 付近に杉の大木が並んでいる御沢小屋に着。当時のワンゲル夏合宿行程の常態は 90 分歩き、10 分休息の繰り返しだったが、10 分休息し 15:05 出発。ブナ林の長い坂道を上り、15:38 巨杉の広場となっている下十五里に着。休息し 15:55 出発。やはりブナ林の長い坂道を上り、16:30 ここも巨杉の広場になっている上十五里に着、10 分休息し 16:40 出発。ブナ林をさらに上り、17:10 横峰小屋・1334m に着。テン場代 200 円を払って、6 人用テントを張り、ラジウス（灯油コンロ）を使い、大きな鍋で米飯を炊き、夕食。20:00 寝袋（シュラフ）に入り就寝。

7 月 29 日晴：3:00 起床。朝食後、ラジオ体操をして 5:08 出発。なだらかな道の後、尾根道を上り、5:30 地蔵山 1485m・地蔵小屋に着。10 分休息して出発。なだらかな尾根道を下り、鞍部から尾根道を急登すると、剣ヶ峰の岩稜。飯豊連峰一の岩稜と言われ、鉄製の梯子と鎖がある。6:20 三国岳・1644m 山頂に達する。山頂には三国小屋が建っている。天候は曇りであるが飯豊連峰の盟主である飯豊山（いいでさん）・2105m や飯豊連峰最高峰の大日岳・2128m などが望め、初めて登頂記念写真を撮った。6:35 山頂を出発。穏やかな岩稜帯を進み、駒返しでは３段になった鉄梯子と鎖が設置されていた。種蒔山・1791m

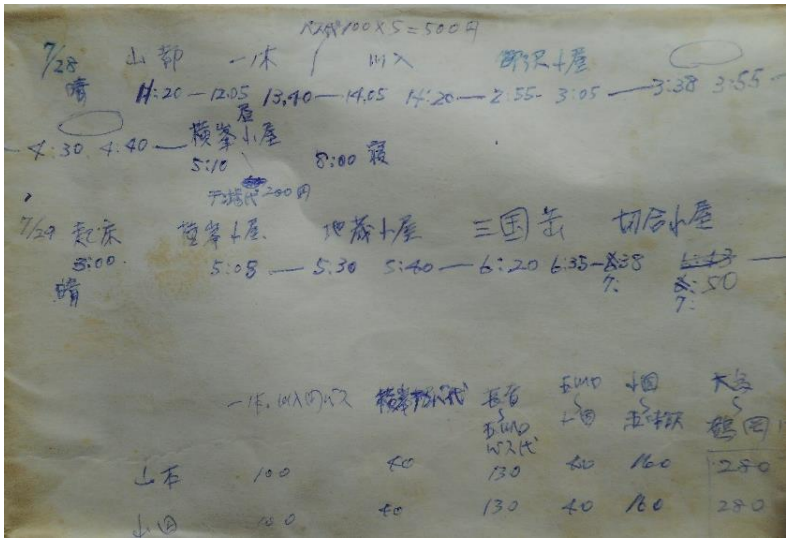
三国岳の地図/昭和 44 年発行の国土地理院 5 万分の 1 地図・嶽日大の一部分/黄色線は筆者が付けた登山道



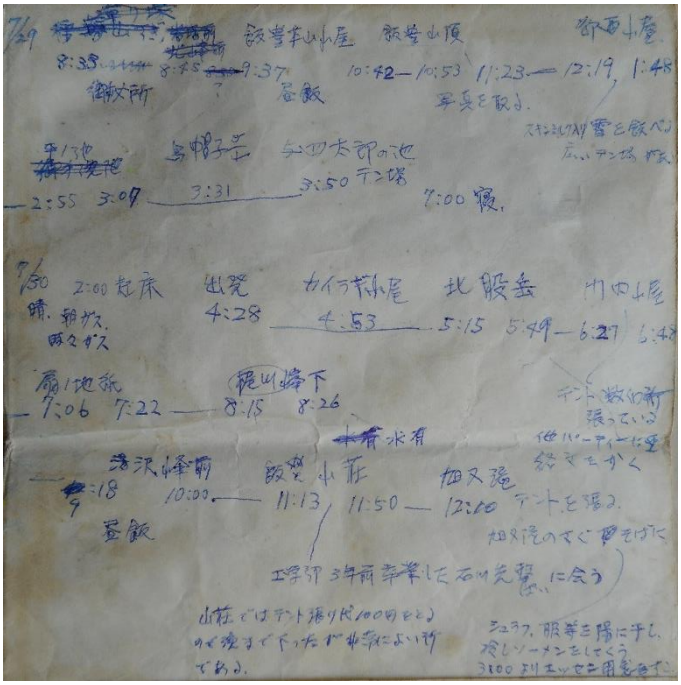
飯豊山の地図/昭和 42 年 6 月発行の国土地理院 5 万分の 1 地図・飯豊山の一部分/黄色線は筆者達が歩いた登山道、黄色破線はバスに乗った道、赤線は筆者

が付けていた負傷・病気など不測の事故発生時に避難するに適した登山道で地図の裏側にはその先にある病院名・住所・電話番号を赤字で書いていた

（注）筆者達は地図の南側（下側）から北側（上側）に向かって歩いた。



国土地理院５万分の１地図・嶽日大の裏側に筆者が記録した詳細な行程実績の例



国土地理院５万分の１地図・飯豊山の裏側に記録した詳細な行程実績例

を通った後、高山植物のお花畑の中、残雪の急斜面を通過。広い砂礫地になり、7:38 切合小屋（きりあわせこや）に着。7:50 出発。雪渓を横断してお花畑の平坦な稜線を上り、草履塚・1908m に着。この先は神聖な飯豊神社の境内なので、新しい履物に履き替え飯豊山に参詣し、履き替えた草履が積まれ塚になったと言われているという。さらに坂道を下ったところに、赤い布を身につけた石像・姥権現が祀られていた。伝説によると、女人禁制の飯豊山に登った女性が石になったと言われている。次いで、8:33 両側が切り落ち鎖のある岩稜である御秘所・1882m に至り、8:45 無事通過。さらに、飯豊山固有種の紫色のイイデリンドウや、ヒラウスユキソウなどが咲き乱れる急登の長いガレ場の御前坂を登ると 9:37 飯豊本山小屋に着。小屋の奥には飯豊山神社・2102m がある。ここで料理し昼食の後、10:42 飯豊山山頂を目指して出発。水溜り・小池が所々にある湿地帯で花咲く平坦な稜線を歩き、10:53 遂に感動の飯豊山・2105m 山頂に到達。山頂は花崗岩の露岩で覆われ、祠があり、一等三角点が設置されている。残念ながら山頂はもやが立ちこめ、眺望はなかった。天候に恵まれれば朝日連峰や吾妻連峰、蔵王連峰など、さらに日本海まで見渡すことができるという。しかし、周辺にはイイデリンドウやマルバコゴメグサ、カネツメクサ、イワウメなどが咲いている。

ネットのウィキペディアなどによると飯豊山は、白雉 3 年（652 年）知同和尚と役小角が開山したとされる古い山岳信仰の場である。飯豊山大権現を祀る修験の場として栄え、江戸時代初期までには修験道の修験者多く訪れた。元禄期以降は修験色は弱まり、稲作信仰、成人儀礼、死者供養などを中心とする庶民信仰の形態に移行した。さらに太平洋戦争後は女人禁制が解除され、多くの登山者が訪れる山として変貌した。また、飯豊山地は福島県・新潟県・山形県の県境にあり、朝日山地と並び東北アルプスの異名を持ち、山容が非常に大きく万年雪もある。飯豊連峰は火山ではなくて、花崗岩の降起山脈であり、花崗岩砂で形成されている。

三国岳山頂にて/保管していたネガフィルムを焼増した写真を複写

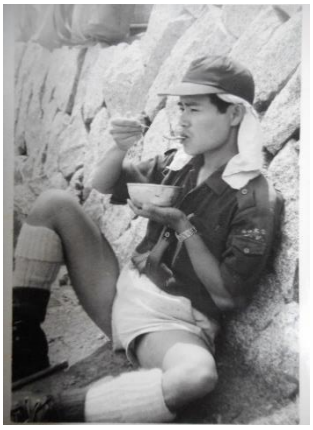
三国岳山頂にて/ネガフィルムを焼増して保管していた写真を複写、
左端が筆者

飯豊山登頂記念写真/保管ネガを焼増して複写、右端は飯豊山山頂の標識　飯豊山登頂記念写真/ネガ焼増し保管の写真を複写、左から 2 人目が筆者

11:23 飯豊山山頂を後にし、イワウメ、ミヤマキンバイなどが咲きほこるなだらかな稜線を下り、駒形山・2038m からさらに下り、ほとんど上り下りのない平坦な稜線をニッコウキスゲ、タカネマツムシソウなどが咲き牧歌的なお花畑である草月平を経て、御西岳・2012m に。チングクマ、ニッコウキスゲ、コバイケイソウが咲き乱れている。さらに平坦な稜線を進み、12:19 御西小屋・避難小屋に着。ここには広いテン場があった。雪渓の雪をコッヘルに入れ、スキンミルクをかけてかき氷もどきを作って食べ、一服の涼を得て大休憩。13:48 出発。やはり平坦な・穏やかな稜線を進み、天狗岳・1979m へ。なだらかな尾根道を少し下り、天狗の庭。この辺りは湿地帯で水溜り・小池が点在し、イワイチョウ、ヨコバシオなどが咲いている。あまり上り下りのない平坦な尾根道を歩き御手洗池（みたらしのいけ）・1856m。さらに、なだらかな稜線を歩き、14:55 亮平ノ池・1850m。15:07 に出発し稜線を上りチングルマなどが咲くカブト池へ。さらに平坦な稜線を進み、15:31 烏帽子岳・2018m。やはり穏やかな稜線を下り、15:50 与四郎ノ池・テン場に着。テントを張る。当時の料理はじゃがいもや玉ねぎ、にんじんなどを煮た後にカレーの元を入れ米飯にかけたカレーライスが多かったが、料理し夕食。19:00 就寝。

平坦な稜線で腹ばいになる山本 SL

雪渓に入いった 2 人とポーズをとる山本 SL



コッヘルのかき氷もどきを食べる筆者

与四郎ノ池・テン場にてくつろぐ

与四郎ノ池・テン場にて/左端が筆者

与四郎ノ池・テン場で夕食の料理をする

7 月 30 日朝霧、晴・時々霧：2:00 起床。朝食、テントをたたみ、後片づけ。ラジオ体操をして、4:28 出発。穏やかで平坦な稜線を歩き、梅花皮岳（かいらげだけ）・2000m。なだらかな稜線を下り、十文字鞍部にある梅花皮小屋・避難小屋に 4:53 着。豊富な水場があり、付近には飯豊連峰で最も多彩なハクサンコザクラなどの高山植物の花が咲き乱れている。ここから急坂の尾根道を登り終えると、5:15 北股岳・2025m に達した。山頂には鳥居と小さな石の祠がある。天候が良いと仏差岳から飯豊連峰の大展望があるというが、あいにくの霧で望めなかった。5:49 山頂を出発。なだらかな稜線を少し下り、平坦な稜線を進み、乾性のお花畑が広がるギルダ原・１８８０m、ギルダ池と快適な稜線を歩き、6:27 水場のある門内小屋・避難小屋に着。テントが数枚張ってあった。小屋の裏側が門内岳・1887m。山頂に祠がある。6:48 山頂を出発。ヒナウスユキソウやハクサンイチゲのお花畑の平坦な稜線を歩き、7:06 扇ノ地紙（おお

ぎのじがみ）・1889m に着。広場となっている。この地名は扇を開いたような雪形が残ることに由来するという。休息後、7:22 出発。高山植物の花が咲く梶川尾根を下り、8:15 梶川峰・1692m。8:26 さらにダケカンバが生える尾根を下り、五郎清水の水場がある急坂を下り、滝見場・1145m の展望台を経て、赤ハゲ・1036m を通り、9:18 湯沢峰・1021m に着。昼食をして、10:00 出発。尾根道を下り、飯豊温泉の源泉からは湯ノ沢のなだらかな傾斜面を少しずつ下り、11:13 飯豊温泉の飯豊山荘に着。ここで山口大学工学部ワンダーフォーゲル部を 3 年前に卒業した石川先輩に偶然出会い、しばし歓談した。山荘にはテン場があったがテン場代 100 円と聞き、止めて、11:50 出発。玉川沿いのほぼ上り下りのない道を進み、12:10 旭又滝・400m に着。滝壺の近くにテントを張り、シュラフや汗臭くなった登山服などを滝壺からの水で洗って干した。また、冷やしソーメンを作り、中間食とした。筆者は当時から現在まで冷やしソーメンが大好物。のんびりと休憩。15:00 より料理を作って、夕食。18:40 就寝。

尾根道にて霧で遠望がないが肩を組んで

稜線にて残雪・雪渓を背にする筆者

稜線にて霧にかすむ遠望を背に万歳する山本 SL

霧の中の北股岳山頂に立つ小田君

霧の北股岳山頂にて/右から 2 人目が筆者

霧の北股岳山頂にて/ケルンを背にする

遠望が霧の中の稜線にて

遠望が霧の中の稜線にて/筆者は前列左

かすむ遠望を背にする筆者

稜線から薄く浮かぶ遠望を背に

雪渓とかすかに浮かぶ遠望を望む

旭又滝からの水で洗った登山服などを干す

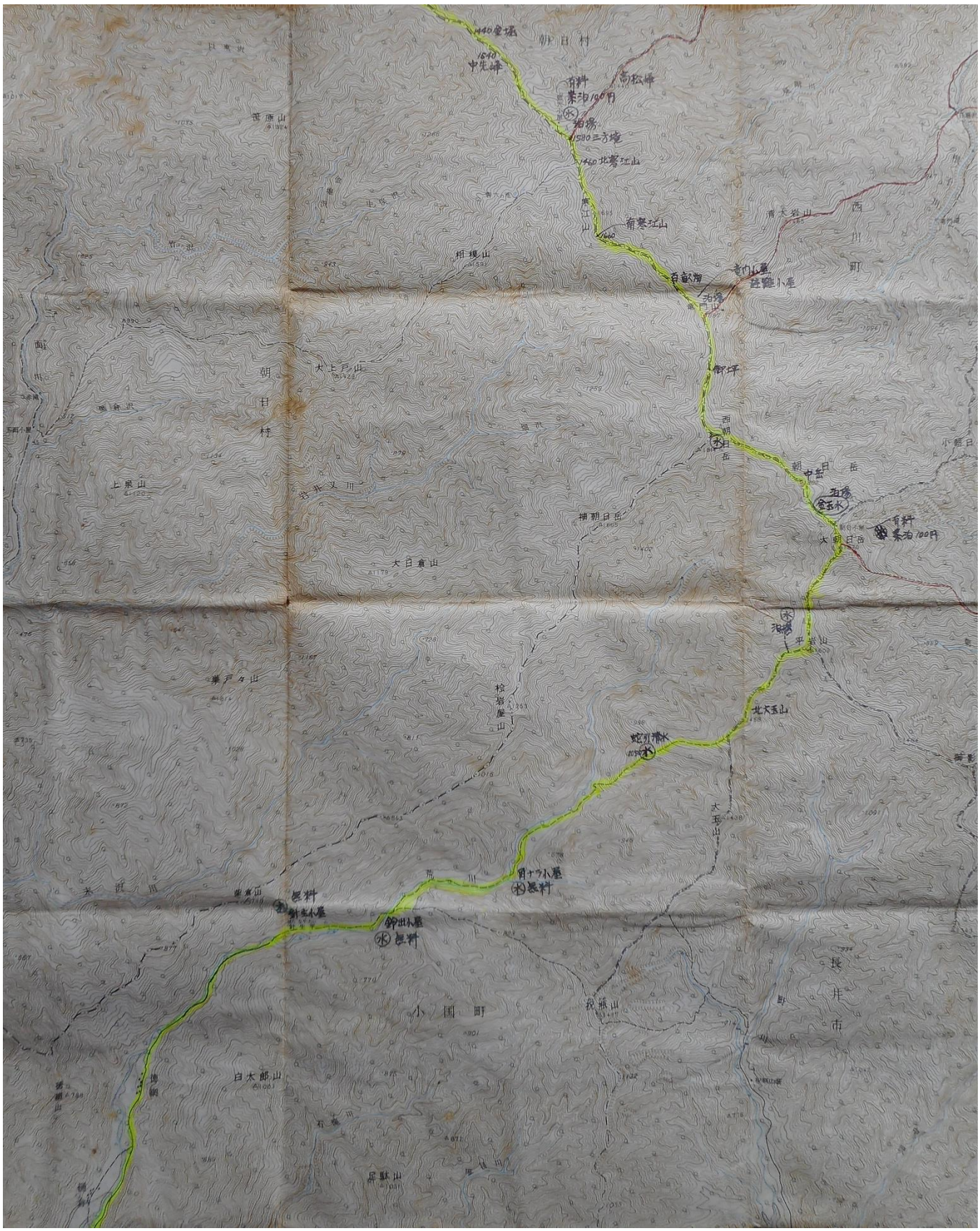
旭又滝

旭又滝の滝壺近くに張ったテント

7 月 31 日：朝食をして、4:00 出発。玉川沿いの道を少しずつ下り、4:18 オワタリ沢、4:53 には玉川に架かる吊り橋を渡り、5:10 長者原に着。

6:15 国鉄バスに乗り、7:08 玉川口。この間のバス代 130 円。7:39 汽車に乗り、7:56 小国駅着。この間の乗車券代 40 円。朝日連峰を縦走して来た D パーティーと一緒になり、米や野菜など、スイカと灯油 4ℓを買い出し。9:00 頃食堂に入り昼食。また、筆者と D パーティーの田辺豊 PL が郵便局で本部パーティーの井上実智夫 PL に電話して、無事計画通りの合宿を連絡した。このとき、郵便局員がどこの大学ですかとの問いに田辺君が山大です。すかさず、筆者が山口大学ですと言うと、郵便局員はここら辺りで山大と言うと山形大学のことです。遠く本州の西の端から来たのですね。13:35 発のバスに乗り、14:40 五味沢に着。バス代 160 円 。

五味沢の地図/昭和 42 年発行国土地理院 5 万分の 1 地図・手ノ子

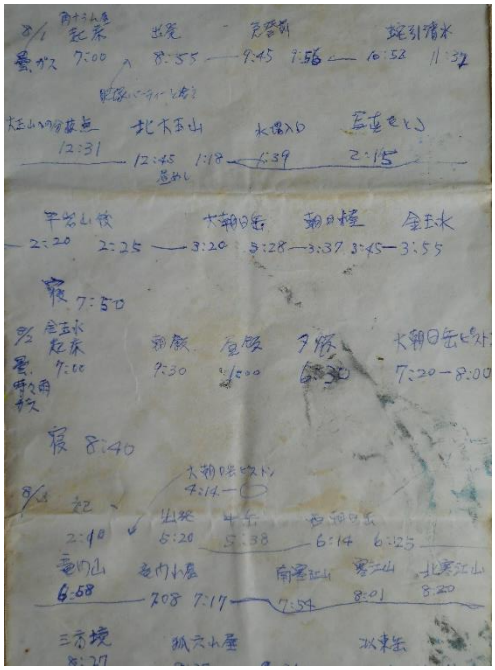


徳網から大朝日岳、狐穴小屋への地図/昭和 42 年発行の国土地理院 5 万分の 1 地図・朝日岳の一部分/黄色線は筆者達が歩いた登山道、赤線は筆者が付けていた負傷・病気など不側の事故発生時に避難するに適した登山道で地図の裏側にその先にある病院名・住所・電話番号を赤字で書いていた。

（注）筆者達は地図の南側（下側）から北側（上側）に向かって歩いた。

ここには茅葺の家が多く、山の神社もある。

14:58 朝日岳を目指す歩きとなり、荒川沿いの道を進み、15:50 徳網に着。中間食としてクラッカーとキュウリを食べ、のんびりと大休憩をして16:46出発。さらに荒川沿いを少しずつ上り、橋を渡って、17:49荒地の針生平（はんなりたい）・針生小屋着。小休息し、17:58 出発。荒川に架かる吊橋・大石橋標高430m を渡ると鈴出小屋。さらに荒川沿いに上ると一本丸太の吊橋が架かっている。重いキスリング（横長の帆布製リュックサック）を背負っており、危険なので、18:24 靴をはいたまま渡渉した。さらに、川沿いを進むと 18:59 吊橋・白布橋。かなり高い所にあり、渡渉を 19:04 終える。ブナ林の川沿いの道を懐中電灯（当時は誰もヘッドランプなし）で足元を照らしながら進み、またも一本丸太の吊橋があり、渡渉。ワンゲルの常態で SL が先頭を歩きその後を 1 年生、2 年生、最後尾に PL と連なっており、PL の筆者はテントを林の中に張ろうと言うが、山本 SL が計画の角楢小屋まで行こうと言い、19:35から一人で確認に行く。19:55帰って来て、小屋があるとのこと。ブナ林の中を進み、20:30 角楢小屋 ・テン場に着。すっかり遅くなったが、料理を作り、夕食。小国で買ったスイカを食べ、話して全く遅い、0:58就寝。PLとして、遅くなったのだから小屋まで無理をせずに林の中にテントを張るべきだったと深く反省。



国土地理院５万分の１地図・朝日岳の裏側に記録した行程実績例

飯豊連峰から下山し、長者原で国鉄バスを待つ

長者原の標識板にて/右手前が筆者

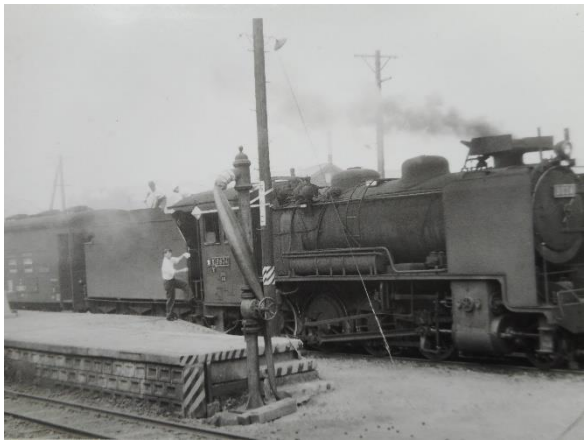
小国駅近くで休息し間食

間食後に昼寝をする筆者

小国駅でＤパーティーと一緒に/右から３人目はスイカを持つ山村君

小国駅でＤパーティーと一緒に/前列中央が筆者

小国駅でＤパーティーと一緒に/右から４人目が筆者、左に寝転がっているのは誰か



小国駅の蒸気機関車

8 月 1 日曇・霧：前日寝るのが遅くなってしまったので、7:00 起床。そこに、朝日連峰を縦走して前日、蛇引清水のテン場に泊まったＣパーティーが来た。Ｃパーティーは肥塚 PL（経済学部３年生）の下、８名の予定だったが、３名がそれぞれの事情で不参加となり、４年生の木村先輩が加わり６名である。しばし歓談。8:55 出発。荒川沿いの道を少しずつ上り、大玉沢に架かる一本丸太の吊橋を渡る。渡るとすぐに急登前になり 9:45 休息し、9:56 出発して急登を上る。10:52 蛇引清水・1050m、水場がある。今朝の 7:00 起床は 6 時間しか寝ていないので、清水を飲み大休憩とする。11:32 出発。さらに急登を上り、緩やかな上りの尾根道となり、12:31 大玉山への分岐を通過、12:45 北大玉山・1469m 山頂に着。昼食とする。13:18 出発。周囲がハイマツなどの低木帯になった稜線を上り、13:39 オオビ沢にある水場への道を左手に見た後、14:15 一時の晴間の下、大朝日岳と稜線の山々に感嘆し、写真撮影した。緩やかな稜線上に、平べったい岩が墓石のように立っている平岩山・1609m 山頂に 14:20 着。稜線上で山頂のような感覚がないので 14:25 出発。左手に袖朝日岳、西朝日岳南西の壮絶な侵食崖を望みながら、標高差 300m のザレた花崗岩砂地の急坂を登ると、15:20 感動の大朝日岳（おおあさひだけ）・1870m 山頂に到達。天気が良ければ 360 度の大展望であるが、残念ながら霧がかかり眺望がない。

ネットのウィキペディアなどによると、朝日岳（あさひだけ）は山形県と新潟県の県境に位置し、主峰の大朝日岳は山形県にある。北の出羽三山、南の飯豊連峰とともに磐梯朝日国立公園に含まれる。また、日本百名山の 1 つである。日本海から 40km という位置と、南北に連なる連峰という条件から、有数の豪雪地帯であり、標高の割には自然条件の厳しい山域である。また、米沢城主となった直江兼続が飛び地である自領の庄内を結ぶ間道として国境の朝日連峰を山越えして全長 60km に及ぶ朝日軍道を切り開いており、起点は長井から草岡、崋山、平岩山、大朝日岳、以東岳、茶畑山、高安山を経て鱒淵に抜けるもので、今日でも一部その道形を確認することができるという。

15:28 山頂を後にする。稜線を下り、15:37 朝日小屋に着。15:45 出発。なだらかな稜線を下り、15:55 金玉水に着。ここは朝

尾根道を上る

ハイマツの北大玉山で昼食後

日小屋の水場となっており、テン場でもある。テントを張り、夕食。19:50 就寝。

大朝日岳の雄姿を望む

平岩山より大朝日岳と稜線を望む

平岩山からの光景

平岩山から望む

平岩山から望む稜線と雲に浮かぶ遠景

平岩山から望む大朝日岳と稜線

8 月 2 日曇、時々雨・霧：7:00 起床。集中地への行程は予定どおり進んでおり、ラジオの天気予報から、チン（沈：雨風などにより、歩行を止めテントを張ったままにして過ごすこと）することとした。9:30 朝食。13:00 昼食。月山縦走の後、大月沢より入山し朝日連峰を縦走中で前日、狐穴小屋のテン場泊だった A パーティーが強雨の中をやって来てテントを張った。A パーティーは池富士 PL（農学部３年生）、中森 SL（文理学部３年生）、２年生２名、１年生４名の計８名である。当時、５万分の１地図は蓋付きの塩化ビニール製のマップ入れに納め、キスリングの横だったか

にぶら下げていた。このためキスリングを背負ったまま、地図を見ることが出来るとともに、雨に会っても地図の裏側に万年筆で書いた行程実績記録などへの損傷がなかった。18:30 夕食。19:20、前日霧の中であった大朝日岳へピストン（荷物をテントに置いて、予備食と水を入れたサブザックを背に山頂までを往復すること）し、20:00 帰る。20:40 就寝。

Aパーティーメンバーと一緒に/金玉水テン場にて

チンのテン場の筆者

チンのテン場でも一時見えた遠景

チンのテント前のBパーティーメンバー

金玉水のチンテン場の様子

チンのテント入口の筆者

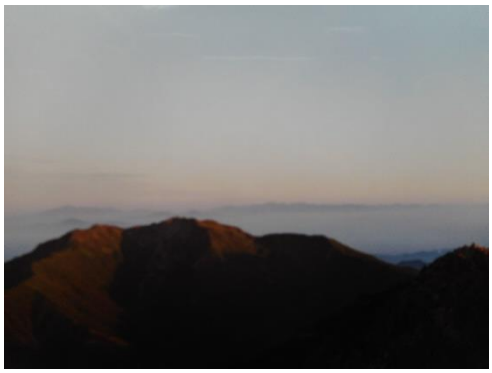
チンのテン場にて/遠方に歩く筆者

筆者/大朝日岳山頂からだろうか

8 月 3 日：2:10 起床。朝食後、4:14 から大朝日岳へ再度、ピストン。天気が良くて、感嘆のご来光を迎えることが出来た。テントをたたみ、5:20 出発。ニッコウキスゲ、コバイケイソウ、ハクサンフウロ、ヨツバシオガマなどが乱れ咲く道を緩やかに上り、中岳・1802mの東斜面を巻いて進む。ここにもアオノツガザクラやハクサントリカブトなど、多彩な花が咲いている。急坂の稜線を鞍部まで下ると、湿地にいくつかの水溜り・小池がある草原になっている。長い草

原の後、花々を眺めながら稜線を上り、6:14 西朝日岳に着く。振り返ると中岳を従えたピラミッド形の大朝日岳がそびえている。6:25 出発。ヒナウスユキソウやイワウメなどが咲く稜線の砂礫地を下った後、上り返し 6:58 竜門山・1687m に。急坂の稜線を下り、鞍部に建つ竜門小屋・避難小屋に 7:08 着。小屋前までホースで引水してある。小休息し 7:17 出発。傾斜のない尾根路をしばらく行き、ヒナウスユキソウ、マツムシソウ、ミヤマキンバイが咲く南寒江山・1660m に 7:54 着。ヒナウスユキソウ、タカネマツムシソウが群生する稜線の急坂を上り 8:01、寒江山・1695m 山頂。稜線を下った後、上り返して 8:20 北寒江山・1658m に。さらに少し下り進むと、稜線が三方に分かれている三方境・1591m に 8:27 着。ザレた花崗岩砂の道を下ると、狐穴小屋・素泊 100 円に 8:35 着。ここは八久和川源流の豊富で冷たい流れがあり、休憩や炊事に絶好の場所。昼食とする。

夜明けの大朝日岳山頂からの光景



大朝日岳山頂からのご来光

大朝日岳山頂からのご来光後の光景

大朝日岳登頂記念写真

雲海に浮かぶ飯豊連峰を背に稜線にて

雲海を背に急坂の稜線にて/右遠方は飯豊連峰

西朝日岳山頂にて大朝日岳を背にする筆者

キスリングを背にして遠景を望む筆者

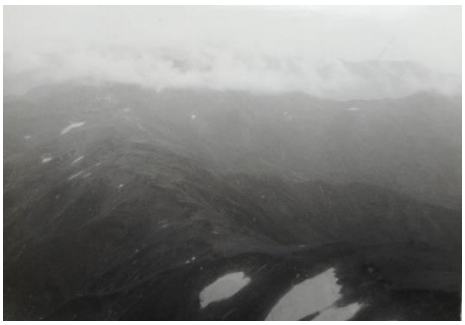
ゆるやかに続く稜線と遠景

近景と遠景

山頂と遠景

小休息

雄大に続く稜線を望む



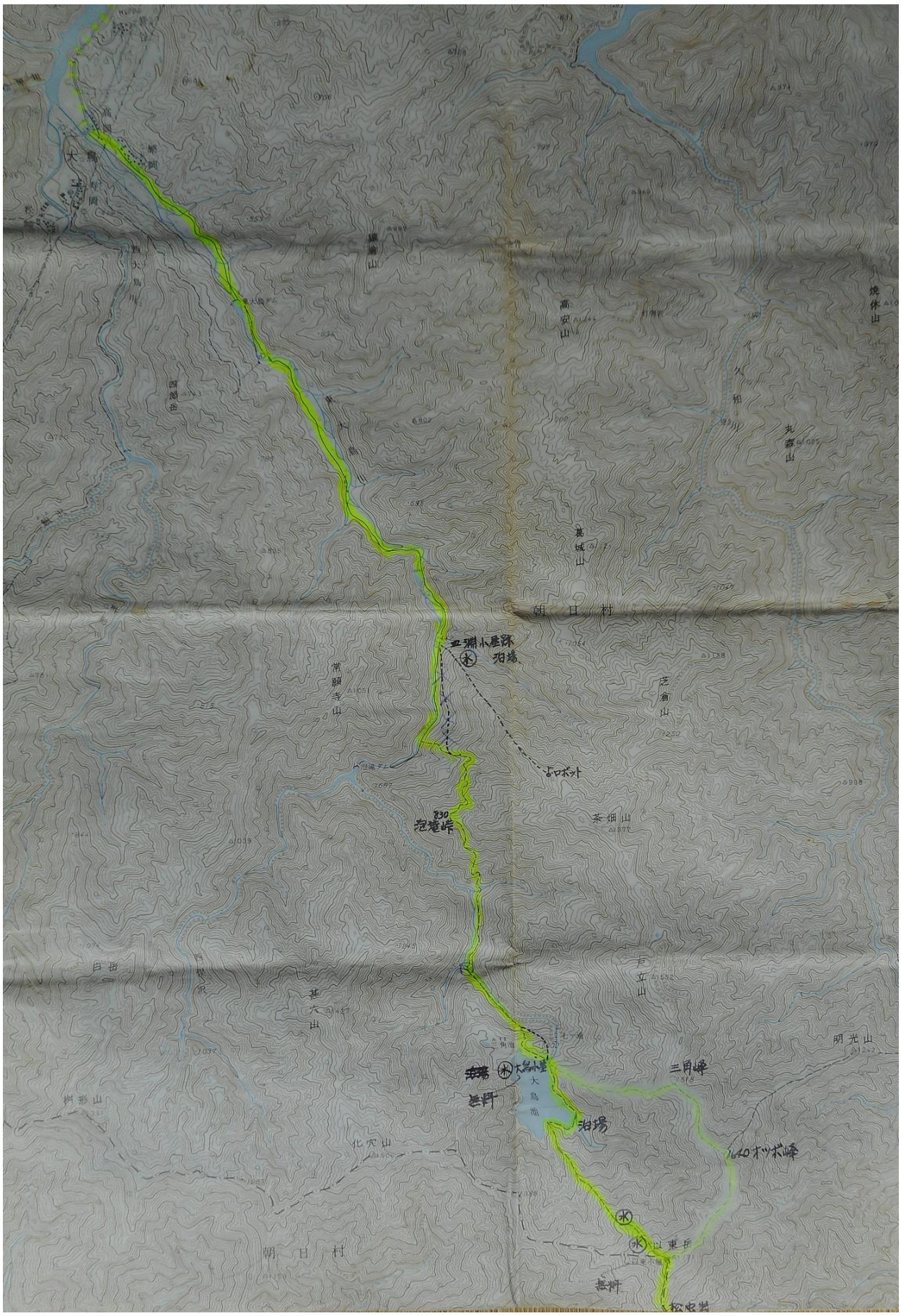
稜線近くの残雪とかすむ遠景

なだらかな稜線を上る

狐穴小屋を 9:36 出発。すぐ先に広大な草原が広がり、その奥には大きな広がりのある以東岳が見える。中先鋒・1523m から緩い尾根道を少し下り、ハクサンイチゲ、ミヤマキンバイ、トウゲブキ、ニッコウキスゲなどの群落の穏やかな尾根を上り続けると、稜線上に松虫岩と呼ばれている大きな花崗岩が点在している。さらに、稜線を登り、11:02 以東岳・1771m 山頂に達した。山頂は 360 度の展望があり、天気が良ければ大朝日岳の尖峰、眼下にはブナ林に囲まれた大鳥池の湖面、その上に広がっている日本海が見えるはず。あいにくの霧で遠望は薄雲の中、11:16 出発。すぐに以東小屋があり、草原を下ると森林限界となる。急坂の尾根道を下り、大鳥池湖畔の東沢出会いに。大鳥池は以東岳の中腹にできた自然の堤防湖で周りを深いブナ原生林に囲まれ、青い湖面が美しい。湖畔を半周近く歩き、12:55 大鳥小屋のテン場に着。魚釣りを試みたが、一匹もかからなかった。夕食をし、19:00 就寝。

高山植物の花々が咲く広大な草原に続く登山道/中央は他の登山者

草原に咲く花々



以東岳から大鳥池、大鳥高岡までの地図/昭和 42 年発行の国土地理院 5 万分の 1 地図・大鳥池の一部分/黄色線は筆者達が歩いた登山道、車道

ニッコウキスゲ（日光黄菅）（手前）と登山者（右中央）、近くの山々

咲き乱れる花々の道に立ち止まって

松虫岩の岩石群と筆者/中央はキスリング

ハクサンシャクナゲ（白山石楠花）

以東岳・1771m 登頂記念写真/中央が筆者

大鳥池を背にする小田二郎君/左手前は残雪

8 月 4 日曇：2:00 起床。朝食をし、3:55 出発。ゆるやかな七曲りを下り、傾斜のない七ッ滝沢沿いの道を進み、七ッ滝沢橋・吊橋を 4:45 に渡る。冷水沢に架かる吊橋前に 5:02 着。小休息し 5:11 出発。吊橋を渡った後、茶畑の傾斜面を上り、泡滝峠・983m に。峠を越え、東大鳥川に出合うと、大鳥登山口・標高 530m に 6:37 下山した。ここからは川沿いの幅約 2m 程の車道。7:02 血淵小屋跡。テン場の小屋で小休息し 7:15 出発。川沿いの道をさらに下り、途中 3 回橋を渡り、8:30 東大鳥ダムに着。8:40 出発。途中で東大鳥川の支流に架かる橋を 2 回渡り、9:19 大鳥高岡に着。

9:40 発の庄内交通バスに乗り、11:15 山形県の鶴岡駅に着。この間のバス代 280 円。駅前の食堂に入り昼食。筆者が本部パーティーの井上 PL 宛に無事下山したことを電報した。牛乳 1 本 24 円を全員飲む。食料品・食材を買出し。14:48 発の電車に乗り、15:23 湯野浜駅着。乗車券代 80 円。当時の夏合宿では天候などによる予備日を 2 日取っており、残り 1 日を湯野浜の海水浴場で過ごすことにした。15:30 から 15:40 までわずか 10 分間の海水浴。皆泳ぎは得意でないよう。瀬戸内海の島（広島県御調郡向島東村、現尾道市向東町）で育った筆者も日本海の大波にたじたじ。海水浴場のテン場にテントを張り、夕食。19:40 就寝。

大鳥登山口標識板にて

湯野浜海水浴場にて

日本海の荒海に

8 月 5 日曇：3:00 起床。朝食をして 5:20 出発。5:30 湯野浜駅着。6:00 発の電車に乗り、6:25 鶴岡駅着。7:51 発の汽車に乗り、11:27 新潟駅着。駅前の食堂で昼食。12:52 発汽車で翁島駅着。バスに 15 分位乗り、18:10 本部パーティーが通信連絡所としている住吉旅館。歩いて、18:23 福島県の磐梯山の南にある五色沼近くの押立温泉の全パーティー集中地に着。A、B、C、E パーティーが来た。集中地でテント泊。

粉末を溶いて作ったオレンジジュースを飲む B パーティー

集中地でくつろぐ B パーティーメンバー

8 月 6 日曇時々小雨：6:00 起床。昼過ぎに D パーティーが来て、全パーティーがそろった。本部パーティーの井上 PL（文理学部・3 年生）と林幸司（経済学部・4 年生）、高木啓臣（文理学部・4 年生）、寺西幸子（文理学部・4 年生）が準備してくれたキャンプファイヤーが時々小雨の心配の中、19:30 に開始された。各パーティー毎の寸劇や、キャンプファイヤーを囲んで皆で旅鳥やワンダーフォーゲルの歌などを歌ったりする。22:30 終了と同時に夕立ちのような雨が降り出す。なお、当時の 4 年生は就職活動に専念するために部の顧問のような存在となり、夏合宿に参加していなかった。しかし、何故か本部パーティーに 3 名の 4 年生が加わっている。すでに就職先などが決まっていたのだろう。

集中地での筆者

集中地にて/前列中央が筆者

下段：山本君　中段：筆者　上段：中森君

夏合宿全員集合記念写真/左中程のチョッキ姿が筆者

8 月 7 日晴：テントをたたみ、後片付けを全員でして、9:00 過ぎ、夏合宿解散。なお、筆者（文理学部物理学専攻・3 年生）はこの後、A パーティーの中森晴夫 SL（文理学部数学専攻・3 年生）と一緒に日本で富士山に次ぐ高峰である南アルプスの北岳・3192m に登頂した。